

総合計画調査特別委員会総務文教分科会会議記録  
 (第3次丹波篠山市総合計画 後期計画 (案) 調査)

1. 日 時	令和7年10月9日(木) 9時30分開議 令和7年10月9日(木) 15時30分散会
2. 場 所	議員協議会室
3. 出席議員	原田豊彦座長、安井博幸副座長、本多紀元委員、 前田えり子委員、野々村康委員、向井千尋委員
4. 欠席議員	なし
5. 会議に付した事件	第3次丹波篠山市総合計画後期計画(案)について
6. 議事の経過	<p>原田座長 挨拶</p> <p>原田座長 開議宣告</p> <p>9:30 開議</p> <p>■企画総務部              日程第1 第3次丹波篠山市総合計画後期計画(案)について</p> <p>2. 多様な人材と交流でまちをつくる</p> <p>【主な説明】              企画総務部 後期基本計画各論に基づき説明</p> <p>【主な質疑】              野々村委員 大学との連携につきまして45ページの施策展開の方向の三つ目の丸のところ              で、神戸大学との官学連携事業というような形で神戸大学との連携を強めるとい              うようなことが記載されておりました、その下の主要な取組のところの二つ、四              つ目の丸のところでは神戸大学等を初め様々な大学と連携しというような記載              になっております。先日の決算の説明を頂いたところで決算の61ページに10</p>

の大学やサークルとの連携がそのときには行われて、これを進めていこうということなんだと思うんですが、施策の展開の方向のところで神戸大学の名前だけになってますので、私はここは神戸大学等というような表現にしないと、その下の文章との整合性で、おっしゃってることは分かるんですが、等を入れたほうがいいんじゃないかというふうに感じるんですが、その辺の説明を求めます。

企画総務部 大学等入れてはということなんですけれども、この政策の展開の方向のところですね、神戸大学とさせていただきましたのは、この官学連携事業の後の括弧書きに書いてある事業がですね、神戸大学との連携のもと実施している事業ということもあって、現状このような表記をさせていただきました。ただですね御指摘頂いたとおり、この括弧書きの中でですね、農村ボランティア活動という点で言いますと、お話されていたようにほかの大学と連携をしてやってる事業という位置づけのもできるかと思いますので、今頂いた御意見をまた参考にさせていただいて、検討させていただきたいというふうに思います。

企画総務部 先ほど係長が申し上げました補足になるんですけども、神戸大学につきましては、連携協定のほうを平成19年に締結をしております、20年ほど経過するんですけども、そのような関係で神戸大学との官学連携事業ということでこちらは記載しております。他の大学とも今このような関係でですね、丹波篠山市に来ていただいて活動していただく事例も多くなっております。他の大学等からも、またこのような話もございまして今後、連携協定等もですね、進んでいかなければいけないと思うんですけども、現状としては、神戸大学とそのような連携を結んでおりますので、このような記載にさせていただいております。

野々村委員 次長と係長の御説明は若干違うんですけども、等を入れられたら係長の説明があったように、ほかのことも全てスムーズにいくので、等を入れるか一文字の漢字のことなので、その辺のことについては他の大学の活動にも配慮していただいたほうが、いいのではないかという意見を申し上げます。この項も小目標の中の現状と課題のところ、1番下五つ目、市内に住む外国人は年々増加してという表現があります。方向のところ、1番上、国際姉妹都市という文言が出ています。概要のところのところの1番、二つ目の丸のところの後ろのほうで、国際交流に取組というようなことが、今申し上げましたように、現状と方向と概要の中、うたわれているのですが、この小目標で目指す事のところ、国際交流とか、外国人の方との人材の交流というものが表記されておられません。丹波篠山市には他の市町にない、介護福祉養成施設篠山学園等がございまして。またいろいろな、最近

では、ベトナムの方とか東南アジア系の緒ちよつとした食材の販売店、等もできております。また篠山学園においては地域との交流事業も行われておりまして、ただ単にインバウンドの間、外国人の方の交流だけでなしに、もう生活や地域と密着し、労働者としての活躍もしていただいておりますので、外国人人材の育成というようなことも、この小目標の目指すことの中に記載されることが、この後の3項目に記載されている文言との連携がとれるのではないかというふうに考えますが考え方の説明を求めます。

企画総務部 委員のほうから御指摘がございました小目標では、国際交流的な多文化共生も含めた中での記載が必要じゃないかというふうなことであるかと思えます。小目標については、今回二地域居住ということで、以前と違ったフレーズのほうは入れさせていただいてるんですけども、多種多様な交流、様々な交流というところで、それらを包含したような記載にしておるというところではあるんですけども、今言っていただきました、最近の流れでいきますと非常に外国人の方も非常に多くなってきております。そういう中での記載が必要じゃないかというところについては、その辺りについても検討させていただきましていきたいと思えます。

野々村委員 理解しましたよろしくお願いいたしますます。

安田副座長 44ページの成果指標なんですけども、その中に丹波篠山暮らし案内所を利用した移住件数ということが成果指標を出されてるんですけど、私は別に暮らし案内所を利用せずに例えば民間の不動産業者を利用して、移住していただいて件数でもいいんじゃないかと思うんです。実際私の知り合いで、不動産業者の紹介で移住された方もいらっしゃいます。市として考えたら移住件数が何件なるほうが大事なんじゃないかもちろん、丹波篠山暮らし案内所という仕組みがあるからその暮らし案内所の成果を考えるのであれば、こういう書き方でいいと思うんですけども、それよりも、市全体の移住件数がどうなってるかのほうが私は数字としては重要なんじゃないかと思うんですがその辺りについてのお考えをお尋ねします。

企画総務部 成果指標の丹波篠山暮らし案内所を利用した移住件数の件についてですが、こちらについては市全体の移住件数と、そういうなところを指標にするのが本来かというふうには考えております。ただし、市全体の移住件数というのが非常につかみづらいというところもございました。なので、暮らし案内所につきましては

空き家バンクというふうなところで登録をさせていただいて、そこでマッチングを図って移住していくというふうなところの移住件数というふうな部分でカウントをしておるところです。その中でこの空き家バンクについては必ず、市の物件ということでなしにですね、業者による物件も含んでおりますので、市全体からすると不動産会社の物件が全てそこに寄っておるかというところではないんですけども、ある一定のですね、この案内所を介した移住件数というところで、全体的なことは見えませんが傾向としては図れるのではないかとこのところ、このような数値にしております。

安井副座長　私は民間活力というのが非常に大事なと思いますので、やはりそういう民間の不動産会社の方に頑張ってもらって、篠山暮らし案内所を通さずとも、重視してくださる方が増えるのもそれは市にとってありがたいことだと思いますのでその辺り、また、ちょっと検討していただいたらうれしいと思います。それと、その下にイノベーターズスクールの受講者数というのがあるんですけども、私も2期生でイノベーターズスクール入りましたけども、何ていうのかな受講した人の数よりも、例えば塾を受講して、市内に起業した方の例えば割合が何%とか、市内で移住して仕事をされるということを重視したほうがいいかと思うんですがいかがでしょう。

企画総務部　イノベーターズスクールの受講者数については成果指標としていますがもう一つの指標として活動指標というのがございます。イノベーターズスクールにつきましては受講者数という形でカウントしております。その中でこの受講者数については、俗に言う活動指標的な部分というところではあるんですけども、イノベーターズスクールにつきましては全体として丹波篠山に起業されている方については、268人中約40名というところになっております。その数値はこちらでもつかんでおるところでもあります。多様な人材と交流でまちをつくるというふうな指標にしております。確かに最終的な起業者というところもあるんですけども、やはり受講者数についても、やはり何らかの関わりを持ってですね、俗に言う関係人口というふうな部分にもなってくるかと思っておりますので、その辺りを含めた中での受講者数としておるところです。

企画総務部　丹波篠山暮らし案内所を利用した件数のことについてなんですが、次長のほうから申しあげましたけれども、市内で移住された方の件数をということになると、これは正式には転入の数ということになります。これは1500人程度、ずっと継続してあるわけですけども、転入転出ということになるといろんな様々な

理由で転入してこられるということで、私たちが考えている移住というのはどちらかと篠山に魅力を持って引っ越してきてこられた方で、仕事の関係でどうしても必然性を持ってこられた方というよりはそういうような視点で考えています。全国的な統計を見ても、なかなかこれを正確に把握するということが困難であるという中で、あえて分かる範囲でということで丹波篠山暮らし案内所を利用した件数、ここであればですねある程度正確にということかですね数値を確保、確認できるということで、これまでから統計を取ってきてるということで御理解を頂ければというふうに思っております。

向井委員 先日の決算でも、成果指標にされているふるさと納税であったり、移住であったりは大変右肩上がりに精力的に取り組んで頂いているということで、この2030年に向けてもしっかり取り組むということが、これよく分かりました。先ほどの説明の中で、関係人口、この現状と課題のところ、関係人口を移住につなげ、地域の活力を維持することが必要ですということなんですけども、どう、丹波篠山つながり案内所というのを、数年前に、開設されてるんですけども、この関係人口のもう少し可視化を、つまり丹波篠山として関係人口をどのようにとらえて、どのように活用されて、具体的にどんな方が、関わりを持たれているかというのを、見えてこないなっていうのを感じるんですけども、つながり案内所の活用であったりとか、関係人口の可視化、それがまた移住につながっているというようなところ、関係人口、移住につなげることも目標にしているということですので、その辺りが、ちょっと具体的に施策の中で見えてこないなと思うんですけど、いかがでしょう。

企画総務部 この総合計画のことで、先に申し上げておきたいんですが、特にこの基本目標がありまして、その中の小目標ということで、このような多様な人材と交流でまちをつくるというふうなことで、なかなか一つ一つのフレーズの細かい施策のことを織り込んでいくことがなかなか難しい面もございます。ただ、市が1番、どういうところで施策を取り組んで小目標達成のためにやってるかというところの1例としてはですね、向井議員のほうがおっしゃいました、つながり案内所というのを介してやはり関係人口を増やしていくというふうな考え方もございますので、その辺りについては、記載等については検討させていただきます。

向井委員 別にそのつながり案内所にこだわっているわけではないですが、つながり案内所というツールがあるから、活用されてもいいんじゃないかなということで

す。

安井副座長 45 ページなんですけども、行政の役割というところの下から四つ目なんですけど、民間団体と連携しながら在住外国人の現状を把握した文化行政を進めますとなってますけども、これって具体的に言うたら国際理解センターのことじゃないかと思うんです。はっきり国際理解センターとっていう固有名詞入れたほうが分かりやすいような気がするんですが、いかがですか。

企画総務部 多文化共生や外国人の件につきましては、地域振興課のほうで、所管のほうしておりまして、そちらのほうでまたお答えをさせていただきたいと思いますが、確かに、こちら安井副座長のほうがおっしゃいます国際理解センターもすぐに連想するわけなんですけどもそのほかにですね、そのような団体があるのかないのかというところからすると国際理解センターが主に動いておられるというところは、こちら思っておるところなんですけど、この件については地域振興課のほうで、検討させていただくというところよろしいでしょうか

### 3. 最適な交通網を整備する

#### 【主な説明】

企画総務部 後期基本計画各論に基づき説明

#### 【主な質疑】

野々村委員 まず 54 ページの目指すことの 4 行目のところの前のほうで、市内での買物など身近な生活に必要な生活交通もこれは買物難民の解消も目指しておられるのかなというように読み取れます。また現状と課題の二つ目の丸の後ろのほうで、先ほど次長が説明ありましたが、運送業界の人手不足は深刻化しており、喫緊の課題ですという表現、四つ目の丸の 2 行目のところで高齢化等の理由により運営が困難になってきておりますという、人材不足のことが記載されているんですが、今政府が進めているモビリティロードマップ 2024、新たなモビリティサービスの事業化に向けた基本的な考え方と施策として、政府が示しているのは、ドローンや自動運転等が地域の抱える移動に関する課題の改善に役立つことも期待されるということで、前の 5 年は科学が進歩したことによって、いろいろな物事の考え方が変わってきて政府がそちらに力を入れようとしているということで次長のほうが若干説明があったんですが 55 ページの方向のところの 1 番最初に既存の交通モードにとんとらわれることなくということが、もしこれだとしたら、少し表現が、薄いのかなと思います。やはり施策、国としてそういう方向性が持

っておるならば買物難民を解消するためのドローンとか、その次の人材不足、運転士不足のところについては、自動運転等については、そういうようなことについても後期のほうでは検討していきましょうというような考え方を追記すべきだと考えますが、見解をお伺いします。

企画総務部 今、国のですね、流れとしましては、委員おっしゃいました、やはりドローン、自動運転を活用した公共交通というふうなことが推奨されております。特に自動運転等については、三田市の実証運行もされているようなところもありまして、そういうところで情報収集にも努めているところです。今回の後期基本計画令和12年度までというところで、なかなかそういうところに至るには難しいところがありますが、やはり、十分にそこは検討していかなければいけないという思いはしております。55ページの既存の交通モードにとらわれることなく、おっしゃるとおり、このあたりで包含してるところは確かにありますが、その辺りを十分に視野に入れながらですね、今後に向けて進めていきたいと思うんですが、今おっしゃったことについても一部検討はさせていただきたいと思います。

野々村委員 時流に合った検討をよろしく願いいたします。

安井副座長 今の件ですけど、やはり自動運転というのは、急速に実用化に近づいております。今、三田のニュータウンでもバスが自動運転というの、試験運行されたりしていると聞いております。だからそれはもうこの表現をできるだけ分かりやすくしたいのであれば既存の交通モードにとらわれることなくのところに、やはりそれは自動運転バスの導入などを含んでるんだよということが分かるような表記にされたらどうかと思いますがいかがですか。

分かりやすい表現ということでやはり自動運転の検討も今後必要だというふうには十分考えております。総合計画先ほど申し上げました後期基本計画後の5年の中ですね、どこまで検討していけるか、いうところも含めましてこの記載については十分に検討していきたいと思います。

企画総務部 自動運転の件ですが丹波篠山市で自動運転を導入するというのではなくて、導入をしていただけるとすれば今、三田市で行われてるような形での運行事業者ということになるかと思えます。さらに丹波篠山市で運行していただいているところというのは、県系列会社さんということですので、その会社さんでどれぐらいやろうということを思っていたかということに対してそれを市のほうで、支援できるかということになってこようかと思えます。自動運転そ

のものはもう今、国万博のほうで空飛ぶドローンがですね、人を運ぶというのは話題にはなっておるところでございますが、なかなかまだ現在のところ実証実験中ということも5年の中でどこまで考えられるかということをごまこの総合計画の後期計画で書くのかというのは、市としての検討状況、課題になるのかなというふうに思っております。ちなみに市内のある研究者さんの方が、自動運転についての御提案も頂いたこともあってですね、それであれば私も協力しますよということではあったんですけども今申し上げたように、事業運行主体に市がなり得てないというところから、バス会社さんのほうにも問合せをしたんですが、ちょっとなかなかそこまで今すぐに考えられないというような現状も踏まえてのこういう記載になっているということで御理解頂ければというふうに思います。

安井副座長 鉄道の乗降客数も減ってる中で、篠山口以北の複線化ということってのは、僕は現実的にはあり得ないだろうと思ってまして、それを丹波市が書くのなら分かるが丹波篠山の総合計画として書くっていうのは、思い入れても、余り効果がないような感じはするんですが、今、複線化の状態ですら1時間当たりの本数が減らされ続けているわけなんですよ。平日の昼間なんかやったら1時間に一本あるかないかぐらいの、状況まで、便数が、JRの便数が減ってるわけですね。だから、複線化よりも例えば、利便性をどうやって維持するのかっていうかそちらを重視してほしいなという気がするんですがいかがでしょう。

企画総務部 今JR西日本のほうに、毎年1度ではあるんですけどもJR沿線の市町と一緒に兵庫支社のほうに出向きまして、要望活動をしておるわけなんですけど、その場でもですね、このJR福知山線の複線化は、やはり大きな問題として取上げて要望しているところです。丹波篠山市としましては、やはり駅の利便性向上というところでみどりの発券機の増設とか、駅員についてもできるだけ改札のほうまで出てきていただきたいという中で、やはり利用される方がやはり便利に使っていただけるようなそういう取組をしているところです。確かに、現実の問題としまして篠山口以北についてもJR福知山線の複線化ってのはなかなか厳しい現状があるというのは十分認識をしております。ただしそのような動きをですね沿線市町と共同にですね、JRに向けてやっぱり地道にですね、地道な努力ではあるんですけども、要望していつているというところもあります。やはり篠山口以北には大山駅というのもございます。そういうところでもですね、複線化というよりも、やはり駅の存続も含めて、利便性もそうなんですけども、そういうと

ころからもですね、取組は今後も、丹波市あるいは三田市、福知山市とかも含めまして、大事になってくるかと思います。記載については残すような形で記載しておりますので、この辺り御理解頂けたらと思いますよろしく願います。

安井副座長 気持ちは分かるんですが、現実的には厳しいなというのを私は感じております。それと、成果指標で、例えば鉄道が大体、1日当たりの利用者を1000人増やすということを、書かれてますけども、これの1000人増やすというこの根拠何を根拠にこの1000人増えるという目標をつくられたのか、その辺りをお伺いします。

企画総務部 鉄道につきましてはコロナ禍以降ですね大分回復基調にもあるんですけども、まだ100%の回復というようなところには至っておりません。やっぱり、JR西日本さんとしましてですね、なかなかそこを100%に戻していくということは厳しいということも言われているわけなんですけども、やはり丹波篠山市としてですね、やっぱりこの目標はより高く持っていきたいというふうに考えております。やはり、丹波篠山からですね、通勤をされる方も移住されて増えてきております。そこは丹波篠山市の強みだというふうに考えております。複線化になりまして、神戸大阪まで1時間ちょっとで通える場所にあります。そういう人を今後増やしていく中で、こういう鉄道の利用も含めて増やしていきたい、またコロナ禍以降の回復をもう少し、期待してこのような数値にしております。

安井副座長 やはりこれはデータに基づいてやってほしいと思ってます。この10年ほど、朝の通勤時間帯に週に2回ほどは篠山口の駅に行ってます。10年間で二、割は減ってるなという印象でコロナ以降も回復してないです。それはある意味、コロナだけじゃなしに団塊の世代の方々がもう通勤を終えられたということが大きいかなと、移住者の方が通勤とおっしゃってますけども、実際、例えば篠山口の駅の利用者に関しては減ってる分をカバーするだけにはなってないです。むしろ現状維持するのも、これから先5年後、僕は大変かなと思ってて、JRは、もし増えるのであれば、便数とか増やしてくれると思いますけども、なかなか今の客観的な例えば各駅ごとの乗降者数というのはもちろん把握されてると思いますけども、各年度の乗降者数、そういうことを考えて、やっぱりそれをもとにしてこういう数値を出して頂かないと僕はこれ絵にかいたもちに終わってしまうような気がするんですが、いかがでしょう。

企画総務部 やはり鉄道利用についてはですね、現状も踏まえた中で、やはり、今後のです

ね、利用者数というような増加も一部、こちらも期待もしまして、このような数値をですね、出させていただいたところです。その辺りも総合的に、今後検討をさせていただいていただきたいと思います。

原田座長 地域有償運送の展開について高齢化が進んで運営が困難になってきているのが現実ですし、先日の予算審議の中で、前田委員の質問で、藤田次長のほうも、徐々にデマンド交通のほうに移行すればいいだろうというような答弁もあった中で、有償運送が17.2人から18人に少し増やして、何か目標として分かるんですけど、ちょっと数があってないかなみたいな気がするんですけどいかがですか。

企画総務部 市町村有償運送につきまして今4地区のほうで運行を行っております。全体の流れとしましてはやはり運転士さんの高齢化というところで、やはり今後の継続については、やはり厳しいというふうなお声も聞いているところです。その中で先般、大芋地区におきましてですね、地域の方を対象にした乗車体験会というのを開催をいたしました。その中で、城下町まで来ていただいて、ちょっと散策をしていただいて帰っていただくような取組もしました。今まで乗ったことなかったけど、こういう乗り物があつてよかったということで、ぜひ利用したいというふうなお声も聞いているところです。特に大芋地区の運転士さんを含め、運営をされている方の声を聞きましても、お亡くなりなったり、今まで利用されていた方が、利用されなくなった。やはりリピーターの方も多い中で、新しい方に乘っていただくような取組をもっとしていきたいというふうなお声も聞いております。その中で、有償運送については、やはり運営する以上はですね、乗っていただく方も増やしていくような取組もして、やっていきたいと思っておりますので、数値は若干であります。現状維持というふうな部分に近いんですけども、こういう形にしていきたいと思っております。

安井副座長 54ページの1番下の行の丸ですけど、パークアンドライドということが記載されてて、確かに中心部の混雑緩和にはパークアンドライドがいいと思うんですけども、そのために例えば、郡家のところに駐車場をつくられましたね。あそこに例えば、車を止めてからライドというのはどのように考えておられるのか、これから歩くしかないのかなと思ったりしますが、実際、市内の、例えばこの城下町の中心から外れたところに駐車場つくってそこからライドの仕組みとかは、どの程度考えておられるのかなとお尋ねします。

企画総務部 特に、観光客向けですね、パークアンドライド、特に大型イベント等における対応ということで、商工観光課中心にそのような対策をとらしていただいているところですね。こちらとしましては周辺からですね、デカンショ祭りとか、あと、秋の観光シーズン等もそうだと思うんですけども、例えば、たぶち農場さんの前に駐車場がございます。そこで乗り降りをしていただいてそこからバスで市内といますか城下町までお送りして、また、バスでたぶち農場の駐車場までお送りするというようなことをされているというふうには確認をしております。パークアンドライドについては、そのほかの駐車場においてもそのようなことのできるだけ城下町へのですね、乗り入れを控えるというふうなところで、この取組がされているところですけども、やはり、なかなか城下町周辺については混雑がしている状況にはなっていると聞いております。抜本的な解決にはまだつながっていないところもございますので、その辺りについても、商工観光課等もとも連携をしながら、この課題については対応していきたいというふうに考えております。

## 2. 企業振興と企業誘致で雇用を生み出す

### 【主な説明】

企画総務部 後期基本計画各論に基づき説明

### 【主な質疑】

野々村委員 追記されている市内の企業を知る事業を実施することで、倍にするということだと思うんですが、その具体的な内容は、次長が申し上げられた地元企業の福利厚生とかその地元企業もいろんなところで努力していただいてそれのことの発信とかをしていくことで倍増させていくというようなことで受け取ってよろしいんでしょうか。

企画総務部 そのことを中心に、今後は各企業の人事担当者を中心にですね、いろいろ人材確保に向けての今意見交換等も実際に行っているところです。そういう課題整理をして、やはり企業としての課題というのもこちらも十分に認識をさせていただいて、それら解決に向けてどういう取組ができるかというところを今後も検討して取り組んでいきたいと思っております。

野々村委員 座長、地元雇用ということについては、行政だけじゃなしに議会議員もそうでございますし、企業も一緒になって一丸になって高い目標を掲げていただいておりますので、一歩でも近づくよう、努力も共同でやらしていただきたいと思います。

す。

安井副座長　　今のこの成果指標のところなんですけども、今、高校へ進学された方の多くが、進学、大学とか専門学校とか行かれる方が多くて就職される方自体がとても減ってるわけなんですよ。減ってるところの就職率よりも、例えば大学とか専門学校行かれた方が、地元に戻られる方、戻っていか地元企業への就職ということの意味で就職率を考えたほうがより現実的というか、より重要な数字になるんじゃないかと思うんですがいかがですか。

企画総務部　　大学等へ進学されたり、第二新卒とかいう方もおられます、そういう方をターゲットにしてやはり地元就職を進めるという取組をしておるところです。その数値も何とかしたいところですが、なかなかその指標となる母数を把握するのが、厳しいところもございまして、前回から、このような数値にさせていただいております。ただこの内容についてもですねしっかりと把握をしながら、やっぱりこの施策については取り組む必要があるということは認識しておりますので、御理解を頂きますようお願いいたします。

本多委員　　先ほどの野々村委員からも、ありましたけど、企業の魅力を発信されるということで、御回答頂いてたんですけども、ミスマッチっていうと、企業側の魅力を発信するのも大事なんですけど、市内高校生がどういう企業を魅力と感じるのか、どういう企業に勤めたいのかっていうことを、しっかりと企業に伝えていくことと、企業はそれに対して、人材の採用の計画を立てていくっていうことも、すごくミスマッチ解消に大事なのかなと思うんですがその点について、市から企業側に対して、採用の見直しであるとか何か計画について、伝えていくみたいな取組とか、御検討されたりされているのでしょうか。

企画総務部　　高校生がどんな企業を選びたいかというようなニーズを把握して企業さんに伝えるのは何かあるかということですけども、市とハローワークとかいろんな行政機関等が連携させていただいております、高校生に、求人を出す、企業さんが高校生に求人を出すタイミングで、ハローワーク主催ではありますけれども、企業の説明会がございまして。そのときに高校生が何を重視して、企業を選んでいるかというアンケート結果等をお示しされていて御説明はされておりますので人事の担当者さんは特に、そういったことも視野に入れながら、考えてはいらっしゃると思います。ただ、そのとおり、全部が改革できているかというところは、企業努力等によってくるかと思うんですけども、どのようなニーズが

あるかというところは、そういった会議とかで把握はしている現状です。

本多委員 把握されているということで、あともう1点なんですけども、地元企業の人材不足というのが課題になっている中で、107ページの施策の展開の方向の2個目の丸で、企業誘致を図りとあるんですが、企業誘致を図ってしまうと地元企業の雇用というのは下がって行ってしまわないかなと思うんですがその辺りいかがでしょうか。

企画総務部 そのことにつきましてははですね、当然新しい企業が来ていただいて、そこでたくさん雇用をしたいということになった場合に、今、逆に市内企業からそちらのほうに行かれる方もおられたりして、そういう意味からすると、逆に人材不足にもつながっていくところかというふうにも考えるところですが、やはり、市内企業たくさんございまして、魅力ある企業がたくさんある中でですね、やっぱりその企業さんのみならず、今、犬飼初田地区については、以前から新しい、企業さんを誘致するという取組をしています。確かに、その辺りの人の取り合いというところにはなってしまうところはあるんですけども、やはり、今のような企業がそこに来てくれるか、特に業種指定もしているわけでもございませぬ。その中で、丹波篠山市にとって、雇用も生まれ、やはり地域の方にもですね、愛されるようなそのような企業誘致ができたということ今進めているところなんですけども、人材の確保におけるバランスにとってはですね、その辺りについては確かにそういう問題もあるところではあるんですが、ここは丹波篠山市として何とかですね、50年の課題ということでございませぬ。そういうところについては、雇用の増加というところで、極力ですね市内企業の人材確保に影響を及ぼさない形をとっていきたいんですが、その辺りについては難しい問題かということも認識はしておりますので、その対策ということについては、相反してるところはあるんですけども、ここはやはり、犬飼初田地区への企業誘致ということで、やはりここは進めていく考えでおります。何かちょっと答えにはなっていないんですけども、なかなか市の企業全体の人材不足につきましては、パイの取り合いついていうふうな部分はこれはもう丹波篠山市だけじゃなしに、日本全国の問題だというふうにも思っております。

企画総務部 企業誘致についてはですね皆さん、議員の皆さんも行っていたらと思えますけれども「ふるさと一番会議」なんかに参加をしてもですね、地域の皆さんからはやはり働く場所がない、企業誘致はどんどんしてほしいというような声がたくさんあるのも事実です。丹波篠山の今の高校生という枠の中で考えると

次長から申し上げたように確かにパイの取り合いになるところはあると思いませんけれども、今、市外で働いている方々が、例えばその企業が来ることによって、市内で仕事をしようとかですねあるいはこの機会にUターンをしようというような、そういう方もいらっしゃると思いますし、市内の高校生が市内の企業での選択肢では、自分の行きたいところがないというようなケースのときに、新たな選択肢が増えるというようなこともあると思います。ここはやはりもう少し大きなパイの中で考えていく必要があるかなというふうに考えておりますので、企業誘致と、それから市内企業の市内の就職という部分についてはですね、一見矛盾があるようではありますけれども、必ずしもそうではないというか、そういうニーズもあるという認識でおります。

安井副座長　　今の企業誘致のことなんですけども、犬飼初田農工団地っていうのはもう半世紀指定されてから、一社も進出していないというのはこれ現実なんですよ。中央団地は指定されて割とスムーズに2社が企業されたということもありまして、市内でとにかく工業団地を新たにつくるとか、開発以外にも、また新たに設けようとかそういうのはないというふうに理解したらいいんですか。

企画総務部　　現在の残地として指定しておりますのは犬飼初田地区の農工団地のみですので、ここに何とか誘致を図りたいということで、このみということで今取組をしております。

安井副座長　　犬飼初田地区は、農工団地という性格上性制約があるかと思うんですよ。例えばその企業も、例えば食品加工会社なんかもいつときは犬飼初田地区を検討されて、結局やめて、西紀の白地の場所に工場を建設されたんですが、味間奥なんかにジェクスという会社がありますけどもそれも、茶畑を潰して工場にされたりされました。なかなか、市の思惑と企業の思惑とミスマッチを感じるんですけどねその辺り、企業誘致の担当としてはどのようにお考えですか。

企画総務部　　やはり企業との間ではやっぱりスピード感の違いというところは感じております。丹波篠市においては未造成のところを市で買上げさせていただいて、そこで造成をして立地をしていくということではなく未造成のところ企業来られて、そこに建設していくということであることから、スピード感という形では違ってくるのかなということは感じております。ただし丹波篠山市の農工団地の強みというのはやはり造成しているところより、まだ、現状のままですけども、やはり安い単価で購入することができるというメリットがあるというふうにも考

えております。やはりスピード感は確かに必要なんですけども、そういうところだけじゃなしに、ある一定で例えば1年ないし2年というスパンで計画を考えていただいている企業さんも大変多うございます。そういうところもですね、視野に入れながら進めていきたいなというふうには考えております。

## 2. 丹波篠山の宝石を日本の宝石に育てる

### 【主な説明】

企画総務部 後期基本計画各論に基づき説明

### 【主な質疑】

野々村委員 全体的なことですが前期基本計画中に新たに丹波篠山市に生まれたこういうような宝として、国の登録有形文化財に指定されている新しく建設されたホテルや古民家を活用した宿泊施設などが新たな宝石として、生まれてまちのにぎわいが拡大している、加えて城下町のホテルについても、たくさんのお客さんを迎えているというような、こういうような宿泊というような、丹波篠山にちょっと特化、ほかの城下町でもやられているんですが、特色がある、宝石が生まれたというようなことの記述も必要ではないかと思いますが、その辺の説明を求めます。

企画総務部 丹波篠山でいろんな宿泊施設が増えております、特色のある施設がある中です。やはり特産物とかですね、あと特に、文化施設とか伝統文化、景観、自然環境いろんな部分があるわけですけども、具体的な部分というのはですね、こちらについては、一つ一つ記載はできてないんですけども、具体的なものをやはり示していくべきじゃないかなというふうにおっしゃっているかなと思うんですが、そういうことと理解してよろしいか。

野々村委員 ここに記載するかどうかは別にして丹波篠山市の観光の1番の弱点は日帰りだということで、やはり宿のアピールっていうのは、どこかにするべきではないかと。それが宿も一つの宝石っていうような位置づけをしてそこを深く見ていくと今申し上げた宿泊施設にそういうのは泊まれる宝石があるんですよというようなことが篠山市の全体の長期的な政策展開に、関わっていけるのではないかと考えるんですが、その辺の見解をお聞きしたいと思います。

企画総務部 やはり今滞在型ですね観光というのは非常に大事な部分かと思えます。その辺りの記載についても、所管であります商工観光課等も、やはりその辺りはちょ

っと相談、といいますか、検討させていただきたいと考えています。

企画総務部 この項目をですね、ブランド創造をさらに磨き上げるという項目で、もとの計画でこれをさらに具体化する計画としては丹波篠山ブランド推進計画というのがございます。ブランド推進計画のほうではいろんな宝を持って、国際博で行われているような市民にまた市外の人に訴えていこうというような項目でございまして、野々村委員からおっしゃっていただいた観光分野の滞在型に特化したキーワードとしてですね、取り組んでいくという部分については、観光分野のほうでも、それが記載できないかということもあわせて検討させていただきたいと思います。

野々村委員 このこの項目においては、おいしい農産物とか自然環境とか景観とか伝統文化というようなところに触れられているので、古民家を生かした宿泊施設とか、ちょっと入れておけばどうかかなということで、部長のほうから観光分野とも連携して、検討するという事です。ぜひとも検討させていただきたいと思います。それと今部長から丹波篠山国際博も含めてというような言葉があったんですけど、前期のところには丹波篠山国際博の計画は多分なかったんで、前期計画にはなかったと思うんです、後期計画には、丹波篠山国際博に触れる文言がほとんどなかったんで、どこかでこの8年度以降の計画なんですけど、令和7年度に実施して成功した丹波篠山国際博を生かしてこういうような展開をしましょうというのが、総合計画の後期計画にどこかに盛り込めていただければ、いいんじゃないかという、これは意見です。

企画総務部 国際博の成果あるいはこれからの取組ということについては、後期基本計画の総論部分で、美しい農村未来へということから議論も頂きましたけれども国際博のレガシーをという書き方になってたところがあったと思うんですけどもレガシーかどうかという話はあったにしても、美しい農村未来へというその考え方そのものを、シンボルプロジェクト等にも、多分に盛り込んでいる予定でございまして、その中でしっかりと意識づけしていきたいというふうに考えております。

野々村委員 ありがとうございます。今おっしゃったように、総論2番目のところにうたわれて説明を受けたところなんですけど、小目標のところでも、またどこかに、それがうたわれていたらと思いますので、また御検討頂ければと思います。

安井副座長 124 ページの成果指標なんですけど、観光客入れ込み数というのがありますけ

ども、僕は入れ込み数よりも、やっぱり宿泊数っていうのが大事にしたいなと思います。やはり個人消費っていうのはやっぱり宿泊することによって、日帰り等も全然違うわけです。経済効果としても、今、現実には年間10万人ちょっとぐらいかな、宿泊数が、それをやはり、15万人なり18万人とか、いうぐらいに増やしていくっていうのがやっぱり、市の観光関係に、おける、経済効果として大きいと思うんですがいかがでしょう。

企画総務部 宿泊者数につきましては、観光客動態調査のほうであります。小目標については丹波篠山観光で地域のうるおいを高めるといふ、小目標が別にあるんですけども、ページのほうが100ページになります。こちらのほうで目標数値のほうを、240千人ということで上げております。こちらは観光入込者数という形で、しておりますがそういうところで記載をしておりますので、御理解を頂きたいと思えます。

安井副座長 成果指標を観光消費額っていうのが出てますが、現状が約328億円ですか。この数字は、1年間の丹波篠山のGNPというのが1000億ほどやったと思うんでこんな高いことはないと思うんですけど。この数字をちょっと説明をお願いします。

企画総務部 この観光消費額につきましては所管のほう商工観光課となりますので、正確な数字についてのお答えはできかねます。そういう御質問があったということ、また、商工観光課のほうにもお伝えをしたいと思います。

## 1. 日本遺産、創造都市をまちづくりに活かす

### 【主な説明】

企画総務部 後期基本計画各論に基づき説明

### 【主な質疑】

野々村委員 成果指標で前期のほうについては歴史4館の入場数があったんですが、後期については、入っていないということでこれについてはお城周辺この市外の来場者数等を実数をつかむ上でこれは非常に重要な数値ではないかと思うんです。陶の郷の入館者数については、日本遺産の二つのうちの六古窯の件もありまして入れられたと思うんですが、なぜ歴史4館の入館者数を成果指標から除外されたの

か、その説明を求めます。

企画総務部      こちら関係各課協議の中で、歴史4館については、保存、公開、学術文化への寄与が主な目的ということで考えるというところで、集客が多いほどいいんですけども、集客施設ではないだろうということで指標にそぐわないと考えまして除外させていただいたところです。

安井副座長      今の件なんですけども、私はやっぱりその歴史4館というのはやっぱり入場者数、現状としてしっかり把握しておく必要があるし、やっぱり市の中心部の観光客にとっては目玉の施設ですから、やはりそれは、私は残してほしいなという気持ちを持っています。

野々村委員      観光のほうとも集客施設でないというような表現で同意をされているのであれば、歴史4館を回ると入館料を安くしたり、あくまでも観光客に向けた施策として、そういうようなものを展開しながら、そういう集客施設じゃないというような表現については非常に理解に苦しみます、だから、文化財のそういうような歴史価値がある研究施設とするならばパンフレットをいろんなところに置く必要もなく、情報発信も、不要になるというようなお考えでそういうような結論に至ったのでしょうか。

企画総務部      全く集客がなくてもよいとは考えてなくて、ただ日本は学術文化を継承していく、守っていくっていうところで、集客を主に手段にしてしまうと、歪んでしまうんじゃないかということで、今回のような結論に至っております。

野々村委員      総務文教常任委員会で予算審査させていただくときに、この金額に設定したらお客さんは来るのか来ないのか、それが非常な議論を行ってるんです。単価をどうするか、今の話だとそういう議論は全く必要ないし、学術文化であって、そういうことであるならば、何かこれまでの予算審議なんかを全て否定されているというように理解できるんですがどのようにお考えですか。

企画総務部      冒頭、最初の質問にかえるところでございますけれども、この日本遺産創造都市のまちをまちづくりに生かすということに対して、この小目標で目指すことあるいはこれからの展開という施策の中でどういう成果指標がいいかという中で、陶の郷の入館者数あるいは御指摘頂いてる歴史4館への入館者数ということ定義付けてきてるといふこの流れになると思います。今回歴史4館へ入館者数を省いて、陶の郷の部分を入れ込んだということで、どちらがいいかということだ

けではなくてどちらがより適切かということも踏まえてですね、もう一度改めて検討をさせていただきたいというふうに思います以上です。

野々村委員　私が言っているのは、前期の計画には載っていた、後期には外す理由は何ですか。これまでは集客施設だったんですけど学術文化を検証する施設に考え方を改めましたという回答だったんですね。でもそれは、成り立たないんじゃないですかという私の意見です。

企画総務部　論点二つあると思うんですが私が申し上げた日本遺産創造都市をまちづくりに生かすということに対する成果指標がどうどういったものがより適切であるかという考え方と、それからもう一つは野々村委員から言っていたとおり、歴史4館の目的がですね、どういうものであるのかということで、特に、この歴史4館の事業が、その総合計画によって目的が変わるということはありませんから、その部分については、こちらの認識不足のところもありますので、改めて整理をさせていただきたいと思います。

## 1. 丹波篠山ブランドの情報を効果的に発信する

### 【主な説明】

企画総務部　後期基本計画各論に基づき説明

### 【主な質疑】

安井副座長　成果指標のところですけども、前回も言いましたけども、これ、377億なんですけども、この単位が100万円というのはこれ非常に分かりにくいです。もうそれやったらもう、下の数字丸めて328億円にしたほうが、分かりやすいし、目標も425億円とか、そういうふうにしたほうが分かりやすい、この100万円単位というのは非常に分かりにくいです。一般の人にとってはね、市役所の職員にとっては普通かもしれないけど、その点についてはいかがですか。

企画総務部　単位が読みやすいものにするということは必要かとは思いますが、ほかの成果指標の単位とも見比べまして整理をしていきたいと思っています。

安井副座長　テレビラジオのメディアで報道される件数なんですけど、これって、いわゆるオールドメディアなんですよね。今、若い人なんかはSNSとかそういうの観光地に出かけたりとかしてるわけなんです。だから、オールドメディアだけでなくニューメディアに対する成果指標も入れたほうがいいんじゃないかと思うんですがいかがでしょうか。

企画総務部 確かにおっしゃるとおり、今の成果指標は、オールドメディアの件数を拾っておりますが、確かにSNSや、近年、若い世代も使われる、そういった媒体を通じた情報発信というのが大切だとは考えております。しかしながら成果指標とする数値をとることになってきますと、どういったメディア、SNSなどから、どれだけの発信があってそこにどれだけのアクセスがあってということの数値化して拾えるかどうかは、かなり少し研究や分析が必要かと思っておりますので、今のところ、成果指標とはっきり数値が分かるものを設定するには、このメディアの件数になるのかなと考えております。

安井副座長 ぜひ研究してください。フォロワー数とか、例えば篠山に関して情報発信する方のフォローアップとかやっぱりそういういろんな新しいメディアには新しいやり方っていうのがあると思っておりますので、オールメディアだけでなく、若い人たちの情報、発信なり、それによって観光にどうやって寄与するかとかブランドにどうやって寄与するかというのもやっぱりぜひ研究していただきたいと思っております。

## 1. 市民の声を聴き、情報を共有する

### 【主な説明】

企画総務部 後期基本計画各論に基づき説明

### 【主な質疑】

野々村委員 前期基本計画の主要な取組の概要に記載されておりました、市民事業者に対する役割の5番目の丸、主要行政施策の優先順位を理解しましょう。が後期基本計画から削除されておりますが、その理由を説明願います。

企画総務部 確かに前期計画には、市民事業者に期待する役割として、行政施策の優先順位を理解しましょう。とありますけれども、見解としては、この行政施策の優先順位というのは、市民の方や事業者に期待する役割というよりは行政側が、要望や課題を把握した上で、施策の優先順位を整理する役割だと思っておりますので、市民や事業者に求めることではないため、削除していると考えております。

野々村委員 目標の深く検証して、必要ないということで削除されたと理解したらよろしいですね。

企画総務部 この計画策定には議論を重ねておりますので、そのような考え方です。

野々村委員 理解しましたはいありがとうございます。

安井副座長 成果指標ですけど、「ふるさと一番会議」の参加人数がほぼ倍増になってますけどもこれは開催場所を倍にするのか、それとも、参加者を倍にするために何か工夫しようと考えておられるのかな。この数字にされたその実際の根拠というか、何かありましたら教えてください。

企画総務部 ふるさと一番会議の参加人数倍増について、若い方とかですね、女性の方がちょっと参加者が少ないという現状がございます。できましたら全世帯、全世代の方に参加しやすいような、テーマ型の議論ができないかというのを、現在、検討しております、そういうのを踏まえまして若者、女性の方たちに参加頂きまして、議論ができないかなということを考えてこの設定としております。

安井副座長 分かりましたそうなるとですね、成果指標ですけども、私この主要な取組の概要という、117 ページの1 番最後に、伝書鳩メールや市民何でも御意見箱というこれも市民からの声を聞く手段なんですけども、それが成果指標の項目として、伝書鳩メールの件数とか市民何でも御意見箱の件数というのが、成果指標にあってもいいのかなと思ったりもするんですがいかがでしょう。

企画総務部 確かに伝書鳩メールや市民御意見箱にもたくさん寄せていただくんですけども、比較的匿名の御意見などが多く、匿名の要望に対してではなく、お顔やお名前の分かる範囲の市民に、市の方としても、立ち位置をしっかりと表明させていただく御意見を大切にしていきたいと考えておりますので、必ずしも不特定多数の無記名の方の意見が多いからいいとは考えていないので指標にはそぐわないと考えております。

安井副座長 納得です。

本多委員 ふるさと1 番会議参加人数1000 人ということですが、若者や女性が参画することによってということで、御回答頂いたと思うんですけども、この成果も指標だと実際、若者、女性がどれぐらい参加したかっていうのが見えにくいかなと思います。総論の中でもやっぱり若者、女性というのが、今後、重要になってくるってことをうたっておられるので、何かそういう成果指標について検討されたりはありましたでしょうか。

企画総務部 現在ですね、一番会議の若者、女性の参加のほうはですね、全体の約2 割という状況になっております。改めて検討します。

## 2. さらに信頼される市役所、市職員をめざす

### 【主な説明】

企画総務部 後期基本計画各論に基づき説明

### 【主な質疑】

野々村委員 後期計画の116ページにあります市民の声を聞き情報を共有するという部分があるんですがこれが前期計画のですね103ページに主要な取組の概要で、市民事業者に期待する役割で「行政施策の優先順位を理解しましょう」という同じものが上がっていて、これは市長公室のほうとしては、これは市民に求める項目じゃないということで、後期計画からは削除したというような発言がありましたので、統一小目標は違うんですが、やはり市民に求めるものではないということなので、部長が聞いていただいていたと思います。その辺の整合がとれるように、お願いしたいと思います。

企画総務部 詳細は、この後もう一度改めてこちらのほうで整合がとれるようにしていきたいと思うんですが、先ほどの市長公室のほうは、項目としては市民の声を聞き、情報を共有するという項目の中で、行政施策の優先順位を理解してほしいというそういう押しつけ的なことについては行政としていかなものかというところはあるかというふうに思いますけれども、今回の、さらに信頼される市役所市職員を目指すという部分でいうと、市民と市職員がまちづくりのパートナーであるということも書いておりますので、その関係から考えると、そういう意味での行政施策の優先順位を理解していただけるということは一つ考えられるのかなというふうには考えるところですが、今御指摘も頂いたこともございますので、もう少しここは精査させていただきたいと思います。

野々村委員 部長のほうで、両者の意見に齟齬がないように調整をお願いしたいと思えます。それと勉強不足で申し訳ないんですが、公募型派遣研修の派遣者数、これはどのような制度で、例えばネットで見ると1年間とか半年間とか行かれたりするんですけどまだこれ3日間とかいうようなことかと思うんですけども、これの概要を簡略に説明していただけますでしょうか。

企画総務部 公募型派遣研修といいますのは、例えば市町村アカデミーですとか、県の自治研修所のほうが、募集型の手挙げ方式の研修のほうを実施しております。こちらのような研修への派遣という形で実施しておりまして、日数につきましては、本

当に様々で1日のものもあれば10日ぐらいの長いものもありますがそういった研修になっております。

野々村委員　私もネットで調べたらいろんな解釈が出てきて、県の自治研修所の研修もこれに含まれるということになれば、18人という人数も把握できたんですが企業間での人材交流みたいなことも、インターネット上では出てきたりしておりますのでこれは文言の説明のところですね、一般の市民の方に深く理解してもらおうと思ったら、解説を入れられたらどうかという意見です。また、この小目標でめざすことの下から2行目の1番終わり、市民の皆さんから信頼される市役所と書いてあるんですが、せっかく「もっと」を「さらに」し、ということに言葉変えられとるので、市民の皆さんからさらに信頼される市役所というように、文言付け加えられたらどうかというこれも意見です。

安井副座長　121ページの施策の展開の方向の1番下のところ、人材確保のための市職員の職場環境の改善を進め、市職員のエンゲージメントの向上を図ります。このエンゲージメントというのは、理解されない人がはるかに多いと思いますもう少し分かりやすい日本語で書くべきだと思います。

企画総務部　確かにエンゲージメントといいますと、分かりづらさがございますので、少し言葉を変えるか、または注釈をつけるか検討させていただきたいと思います。

安井副座長　私たち委員会で視察で行った香川県の三豊市はフリーアドレス制を一部導入されていて、そういうふうになんとか働き方改革の一環でそういう職員がより働きやすい環境の職場に変えるという文言が分かりにくいんですけど、その辺りいかがですか。

企画総務部　そうしたおっしゃっていただいたように働きやすい環境づくりというのはとても大事ですし、その中の一つとして、フリーアドレスというふうなこともあるかと思います。フリーアドレスの導入につきましては、こちらでも検討のほうをいたしまして、至った結論といたしましては、まずフリーアドレスの机とか、そういったものが大事ということではなくて、まず私たち職員が実際に働くための形がいいのかということについて、考えまして一つは、動きやすいといいますか、モバイル化ですね、現在パソコンについては、各机にノートパソコンという形ではありますけれども、基本的に備付けの形になっておりますので、そういったものをもっと持ち込みができて、それを持っていけば、どこかの場所で、パソコンを見ながら、紙の資料を使わずに打合せ会議ができると、いうふうな動きや

すさというのが、まず、大事なのかなというところです。それから、ペーパーレスにも関係するんですけども、先ほど申し上げましたように、そういった形で皆が寄って、機動的に打合せ、意見交換ができる、そういった場所の設定確保、こういったものが必要なというところで、動きやすさと、場所の確保というところに、まずは重点を置きたいというふうなところで、今後そういった形での予算要求のほうもさせていただきたいと、いうふうに考えております。

安井副座長　　そういった内容につきましては、総合計画の中で、十分に形では、文言としては表現できていない部分があると思いますけれども、一方で、現在、最終作成中の、人材育成基本方針、こちらのほうでそういった内容につきましては、記載のほうをさせていただいております、私どもとしまして、御指摘頂いた内容につきましては、進めていきたいなというふうに考えております。

安井副座長　　今説明を受けたんですけども、そういう方向で人材育成何とかプログラムというので書かれてるんであればそれはやっぱり総合計画にも反映すべきだろうと思います。やはりこの総合計画は全ての計画のもとですから、市として市の職員はこういう方向で向かってるんだよってというのが分かるように、この中にそういうことをされて、今、計画して動いておられるんであれば、この中に反映させてください。こちらからのお願いです。

本多委員　　今、市職員の中途退職であるとか、会計年度任用職員が多い現状において、市役所に対する信頼性であるとか、あと働く場所としての魅力についての影響はどのようにお考えでしょうか。市職員の人材流出であるとか入れかわりが激しかったりするっていうのは、ある種、働く場所としての魅力というのが、低くなってきている可能性もあるんじゃないかということと、あとは入れかわりが激しいと人材が入れ替わりますので、研修であるとか、人が変わっていくと信頼されるっていう点において影響があるのではないかなあというふうにちょっと思うんですが、あとは、会計年度任用職員、非正規の方が多いうのもまた入れかわりの人材が入れ替わっていくっていう影響もあると思いますので、その上で、さらに信頼される市役所であるとか市職員を目指すことっていうのは一つの課題ではないかなと思いますが、その辺りについて、どのように考えられておられるのか。

企画総務部　　今委員おっしゃいましたように、人材の流動化というのは、丹波篠山市だけでなく、全国的な傾向で、それは民間から公務職場に来られる方また、公務職場か

ら民間の職場に移られる方、公務職場から公務職場という形で様々ございます。その中で、短期的にその職員が入れ替わってまいりますと、そこで学ぶべき専門性の定着というのがなかなか難しくなっております、研修を重ねたとしても、結局やめてしまうということであれば研修というのは、無意味とは申しませんが、それに近ような効果になってしまうということは感じております。ただ、一方で、現状、おっしゃった会計年度任用職員の数というの、最近、増えてまいりまして、正規職員と同じような内容の業務を、していただいております、人数も、ほぼ同数か少し多いような状況になっております、会計年度任用職員の、研修という部分も今後大事になってくるかと思っております。その中でそういう正規職員、臨時職員にかかわらず職員がパフォーマンスを出して、市民の皆さんへの行政サービス、質の高い行政サービスを提供してですね、そこで信頼を得ていくというのは大事になってくるかと思っておりますので、ここで小目標を目指すことについては資質の向上ということにしておりますが、今後も引き続き、正規職員、会計年度任用職員を問わず、研修に努めて、信頼される職員を目指していきたいというふうに考えております。

安井副座長 成果指標のことなんですけども、市役所が魅力があれば、受験する方、新規採用とかで受験する方の倍率が上がると思うんですよ。実際、尼崎市なんかすごい倍率やったかな、阪神間の都市なんかはすごい倍率です、やっぱり、魅力があるということは、たくさんの方が応募されて、より質の高いと言ったら失礼かもしれないけどもより優秀な方が入庁されると思うんですよ。だから、例えば成果指標にね、受験のときの応募率の倍率とかね、それを入れるってのはいかがですかね。

企画総務部 市職員の受験者数の傾向として職員採用試験の方法を見直したりしまして、近年応募者数は、二、三年前に比べまして非常に増えているところです。一方で、最近退職者数が非常に多くなっておりまして、それに伴いまして新規採用職員もかなりの数を採用してきておりますので、倍率というのは低下をしている現状でありますので、倍率をここに掲載するというのは、なかなかそのときの退職者の状況等に応じて変わってきますので、それを取り入れたほうがいいのか難しいところあるんですけども一応検討のほうさせ頂きます。

## ■行政経営部

### 日程第1 第3次丹波篠山市総合計画 後期計画（案）について

## 1. 効果的・効率的な行政サービスを提供する

### 【主な説明】

行政経営部 後期基本計画各論に基づき説明

### 【主な質疑】

安井副座長 説明ありがとうございました成果指標なんですけど、経常収支比率 90%から 95%というのはかなりアバウトな目標やなと思って、はっきりした数字書いたほうが分かりやすいと思うんですがいかがですか。

行政経営部 前期の成果指標で、目標を 90%台前半とさせていただいておりました。この 90%台前半という書き方のほうがアバウトではないかという考えもありまして、あえて 90%から 95%という表記にしたこととなります。

安井副座長 前半ならば、92%とか 91%とかね、数字で書いたほうが分かりやすいと思います。それと、15%その上の財政調整基金の残高の割合が 15%程度と言っていて、程度ということはないで 15%なら 15%という数字だけのほうがすっきりして分かりやすいんですけどいかがですか。

行政経営部 10%程度と書かしていただいたのも、財政持続的発展計画に目標値として程度と書かせてもらったのをそのまま記載しておりますので、委員のおっしゃったとおり、数字を言い切ったほうが、分かりやすいと思いますので、再度考えさせていただければと思います。

安井副座長 ほかの部門にはそんな程度とか何ぼから何ぼなんていうのはなかったと思うんですよ。行政経営課だけこういう何かアバウトな書き方されてるんでちょっと違和感を感じましたので、ほかの部等の整合性も図ってください。

野々村委員 成果費指標の 1 番目なんですがこの根拠になっているのは、財政持続的発展計画にこの数値 14.6 というのは使用されてるんですが、これは達成できる見込みですか現在のところ、大幅に変わるということは考えていないということでしょうか。

行政経営部 そうですね、目標ではなくて計画の中にうたっておりますのが 14.6%ですが、現状としましてはこの計画を策定した後の様々な要因の中で、現状、14.6%は難しいと考えております。

野々村委員 持続的発展計画についてはそれぞれ見直しというような言葉がよく登場するんですが、その見直しの時期って言ったらいつ頃になりますか、この新しい総合計画を吸い上げられる前にそういうような新しい指標が出るなら数字だけの話なので間に合うのなら、新しい見直しをこの数字を入れていただくほうが、適切だとは思いますが、その辺の見通し、見直しのはいつ頃やられるということが決まっておれば、説明を願います。

行政経営部 令和8年度の予算編成に向けて、全ての歳入歳出について見直しを行っているところです。見直し内容を反映させた、財政収支見直しについても作成を進めておりますので、今年度中には、方向性も全てお示しできたらなと考えております。

野々村委員 それなら新しい総合計画の中には新しいものは得られないということで、現状の計画の中で今は進める、今ちょっと数字的には達成は難しいと思われる。それしか今のところは数字じゃないんですよということでよろしいですね。

## 日程第1 第3次丹波篠山市総合計画 後期計画（案）について

### 4. 人生100年時代を豊かに生きる学びを推進する

#### 【主な説明】

社会教育部 後期基本計画各論に基づき説明

#### 【主な質疑】

野々村委員 前期の総合計画の74ページに、親子の絆プログラムの講座を受講することにより安心して子育てができるようになった受講生の割合が成果指標に挙げられてるんですが今回の86ページの後期計画にはその項目が成果指標として上がっていません。その理由は何であるか、説明を頂きたいと思います。

社会教育部 親子の絆プログラムは、前期の計画を策定したときは、公民館が主管だったと思いますが、その後、こども未来部のほうに移行してるかと思います。どういう経緯で削除されたかというところについては私では分かりかねます。

野々村委員 こども未来部さんとは協議をされておりますでしょうか。

社会教育部 図書館としては協議はしていません。事業を引き継がれている、公民館のほうで協議をされたかと思います。

野々村委員 所管が変わったこともあるんですけども、部長のほうで、その辺は移っていた

としてもその分がここに指標として入れるべき項目だというような認識であるならば、ここの項目に残しておくべきではないかと思っておりますので、調整をさせていただいたら、どうかと思っておりますがいかがですか。

社会教育部 現状確認しまして必要ということであれば、調整して掲載等を検討していきたいと思います。

野々村委員 よろしく申し上げます。

安井副座長 成果指標のところ、図書館の場合は貸出し密度ということで、成果指標とされてますけども、例えば図書館に新聞を見に行くとか、雑誌を見に来る方なんかは例えば本を借りられないわけです。だから、私はそれはその方々も図書館を利用してるし、社会教育にもなってると思うんで、例えば延べの年間来入館者数、もちろん、市民センター図書コーナーも含めてですけども、やっぱりその、人数も指標にあってもいいのかなと思ったりするんですがいかがでしょう。

社会教育部 いろんな講座ですとか、それから図書館見学とかもそうなんですけど、いろんな形で来館をしていただいた方を入館者数に含んでいる状況でありまして、開催する事業数等により変動しますので、入館者数だけで見ていくっていうところはしておりません。

安井副座長 もちろん貸出し密度ってのも大事な指標だと思うんですけども、やっぱり両方あってもいいのかなと思ったもんですから、私の意見ですからまた御検討願えたらうれしいです。

本多委員 子どもたち1人1台パソコンとかも進んでいる関係で、図書館に電子書籍のサービスを導入されることによって、貸出し密度上がっていくのかなと思うんですがその辺り、今後のこの計画の上でお考えかどうかっていうのをちょっとお聞かせさせてもらえたらと思います。

社会教育部 あらゆる人に本を届けていくためには、電子書籍も一つの方法というふうには考えております。図書館ビジョンにも検討すると記載をしております、来月、図書館協議会委員の皆さんと一緒に茨木市のほうに視察研修にも行かせていただく予定にしております。電子書籍を導入するに当たりまして必要なものは、継続的な財源、それから人材であると、既に導入されている他館から聞かせていただいております。年間300、400万円弱の維持費用が要するという、それから導入費も別途、初期には要するという。また、52回閲覧をしていただきます

と、もうそこでリセットになってしまうこと。52回まで達しなくても、最長2年たちましたら閲覧できなくなるということがありますので、確実に継続して入れていかないと、市民に提供することができないということになります。本市の財政状況も見ながら、市民のニーズも確認をし、電子書籍自体の性能がもう少し待てば、読書アクセシビリティの観点からもすぐれたものになるのではないかなというところも導入済みの他館の方からお話も伺っているところですので、そういうところも踏まえて検討してまいりたいと思っております。

## 1. 文化・芸術を振興し発信する

### 【主な説明】

社会教育部 後期基本計画各論に基づき説明

### 【主な質疑】

本多委員 115 ページの施策の展開の方向の四つ目の丸に市外からもちょっと「来篠」とあるのは誤字なのか、意図的なのかちょっと教えてください。

社会教育部 丹波篠山に来ていただくという意味で、通常使わない言葉なんですけど、少し意味合いも込めまして記載しております。

本田委員 そしたら意図的ということ、ちょっとただこの文言は、総合計画全文検索したら、ここしか使われていなかったの、使うなら、全体を通して使うか、一般の人にも伝わるようなほうがいいのかと思ったんでちょっと質問させていただきます。

社会教育部 担当の創造都市課とも調整をさせていただいて、整合性を図りたいと思います。

野々村委員 114 ページの成果指標の三つ目の枠で交響ホール主催事業、来場者の満足度とあるんですが、よくほかのところでの満足度というように使われてる場合については、その下か何かで、来場者のアンケートによるとか、ただし書きたいなものを書かれるっている部署があるんですが、どういように満足度をはかれるのか説明をお願いします。

社会教育部 年間十三、四回自主公演をしておるんですが、全ての公演におきまして来場者の方にアンケートをお配りをして、回収して集計をしております。大体3割から

4割の回収率であるんですけども、そういった形で、その中の1項目に本日の公演はどのような、どうでしたかという説明をしております。

野々村委員 はい、理解いたしました。それではまず表の下にですね、年4回開催されてる自主公演におけるアンケート調査の集計によるとか、ただし書説明だけを記載していただくよう、意見として申し述べます。

安井副座長 成果指標の中の視点の作品出品者が208から250の目標になってるんですけども、この250の根拠というか、なぜ250になったのかなとか、その辺りちょっと教えてください。

社会教育部 令和6年度が208人ということでしたので、今後ですねやはり直接、そういった方々に直接アプローチをしていきたいということで、各自治体のですね、芸術担当者のほうにですね、直接アプローチをかけて、出品者のほうを増やしたいという意向で250という数字を挙げています。

安井副座長 市展にいろんな分野があったと思うんですけど、どの分野に力を入れて増やしたいとか、そういうのはあるんですか。

社会教育部 どの分野という特定のことは考えておりません。ただですねやはり市民の方々に芸術に触れていただく機会として市展を開いておりますので、そういった形のアプローチをかけていかなければ、自然減のような状況がずっと続いてきますので、今後は我々からアプローチをかけて集めていきたいというふうに考えてます。

## 1. 伝統文化をまちづくりに活かす

### 【主な説明】

社会教育部 後期基本計画各論に基づき説明

### 【主な質疑】

野々村委員 前期計画がほぼそのまま踏襲されていると思うんですが、113ページの方向性のところの1番最後の丸で、市史編さんの刊行については、令和11年を15年に改めるということで、印刷とか提供頂いたデータを今変えますということなんですが、それについては、もちろん教育長、市長の決裁を受けられてますね。直接教育長に話しても話は通じますね。確認させてください。

社会教育部	刊行計画ですが、15年度というような形で今調整を進めておるようなところでございます。市史編さん委員会のほうで基本方針の3年ごとに見直しの中で、今年度に見直しをかける年度になっております。本来ならば7月の段で編さん委員会を掛けて新たな方向性15年度というような方向性を出す予定にしておりましたけども、事務局の都合がありまして開催できておりません。ただ、年内中に開催いたしまして、その方向で調整をしてみたいとこのように考えてます。
野々村委員	質問させていただいている趣旨は、刊行の予定はこれまで総合計画11年に完成の予定というものを15年ということで、議会に示されているんです。議会に、市部局から、提供されていたデータを今変えますということで課長が申されたんですが、このことについてはもちろん教育長と市長の決裁を受けているということによろしいですね。確認させてください。
社会教育部	今、この場において修正という形をとらしていただけてますけど、この部分について15年度に修正するというようなところの決裁はとれてないという現状であります。神戸大学との協議の中で令和15年の方針の報告はしており、教育長、副市长は承認している
野々村委員	基本的に議会に提供されるデータについてはやはり責任の所在がありますので、部長が責任持つてというようなことをおっしゃるのかもしれませんが、やはり教育長、市長の決裁がとれていないものを議会に提供するというのは少し問題があるかと思っておりますので、総務文教については、次に10月14日にも、総計の協議を行いますので今申された11年は15年に刊行予定を変更するというのを、教育長、市長の決裁をとられてから、文言の修正をされたらどうかと思うんですが、座長提案なんです。
原田座長	部長にお伺いしてよろしいですか。
社会教育部	もう金曜日しかないような状態になります。そうした中で、市長までの決裁というのは難しい状態があるのかもしれませんが。
野々村委員	これで全体の中で市長への申入れを行いますので、そのときに市長がそのことについては、全く知りませんというような市長答弁になると議論する意味がないかと思っておりますのでその辺努力していただけてはどうかと思います。
社会教育部	努力いたします。(口頭報告により15年方針の市長承認いただいた)

野々村委員 112 ページの現状と課題の三つ目の丸で、前期では伝建地区ではさらに歴史的という「さらに」があったんですがそれを削除され、次に点で計画的にの前に前期計画では、継続してという言葉がありあるんですがもう一度申し上げます。歴史の前を「さらに」と計画的の前の「継続」してという、二つの文言を削除されている意図について説明をお願いいたします。

社会教育部 はい、さらにというところはあえて消していますが、「さらに」という文言についての、そこまで、ちょっとそこまで考えてはおりません。継続してというのは、これにつきましても、計画的に定めておりますので、計画にやっていくということしか考えておりません。

野々村委員 理解しました。言葉が一つ一つ重い意味を持っていて、全体の10年計画の中で、前期においてはさらに歴史的景観の向上をやりますというのは前期にやっけて、後期にそれを抜いているというのはある程度結果が出てきて、目標に近づいているからそれを抜かれたというような説明を頂ければ納得ができたんですがそういう意味合いに一般的にはとるのかなと思います。それと継続して計画的にっていう部分についても、全体10年の中の前期に継続的に計画が順調に進んだので、もう継続という言葉なしに、計画的という言葉で、普遍的にやりますねので、継続は不要だと考えますというような答弁を頂ければ、ストンと落ちたんですが、そういう意味合いのとり方でよろしいでしょうか。

社会教育部 そのとおりです。

野々村委員 それで結構です。

安井副座長 成果指標の1番上の歴史文化を生かしたまちづくりに取り組む団体数なんですけども、14団体から20団体に6団体、約1.5倍に、増えてますよね。現状として、5団体名として具体的にどういう団体があって、どういうところに働きかけて、その団体が増えるというふうに見込まれているのか、その辺りについてもうちちょっと詳しく説明願えますか。

社会教育部 14団体につきましては、自治会だとかですね、保存会、実行委員会等の14団体になっております。現在ですね山城ネットワーク等も組織を立ち上げてまして、そういった山城についても、地域資産でありますので、このまちづくり補助金を活用頂ける団体として検討を考えております。

安井副座長 山城ネットワークはこの現状の中に入ってないんですが、新たに入るところに

山城ネットワークみたいなのがあるということですね。分かりました結構大きな高い目標を掲げられてるから大丈夫かなという感じを受けたもんですから聞きました。

### 3. 子どもの学びを支える環境をつくる

#### 【主な説明】

社会教育部 後期基本計画各論に基づき説明

#### 【主な質疑】

野々村委員 84ページの現状と課題のところ、丸が前回より1個増やしていただいております。これは、現在よく言われていますインターネットの普及により個人的な情報や画像の掲載、不適切な云々に直面していますという現状について説明されているんですが、それに対してどのような方向性を持っていくのか。主要な取組の概要のところ、インターネットに関することが出ていません。現状と課題を把握されておるのなら、それに対応する方向性とか取組の概要というものを、記されるべきではないかと思いますが、説明を求めます。

社会教育部 主な取組の五つ目の丸の行政の役割ところですね、青少年健全育成関係団体等としておりまして、そちらの中で、そういう団体と協力して支援をしていくということで、あえて記載はしておりません。

野々村委員 前期計画の判断から、現状と課題を追加されとるんですが今申された行政の役割の青少年健全育成関係団体は、前期の計画にも含まれておりますのでその中に包括されるということであったとしても、例えばフィルタリングサービスを入れる、子どもを守るというような一言二言を、現状と課題の対応として記載されたほうが市民の皆様も分かりやすいのではないかと、思いますがいかがでしょうか。

社会教育部 検討したいと思います。

野々村委員 子どもたちのためによりしくお願いいたします。

安井副座長 成果指標の2段目のところで放課後子供教室に関わる児童、地域住民の満足度というのは、どのようにしてこの満足度をはかれるのか、これはやっぱアンケートか何か、ということなんでしょうか。その児童等、地域住民というのは、遊ぶほうと遊ばすほうと思うんですけども、それが両方ともこのパーセントということなんでしょうかその辺りちょっと説明願います。

社会教育部 利用者については、現在6地区で子ども教室を開催してまして、その地区に関わっておられる、参加されてる子ども、保護者、そこで関わって地域の人材としてコーディネーター、ボランティアの方がおられますのでそちらの方々のアンケートをとっているということです。

前田委員 今の成果指標のところですけども、何かなかなかその満足度をはかるというのは難しいかなというふうな思いをしながらここ見たんですけども、むしろその放課後子ども教室をもっとたくさん開催してもらえるようにというか、地域で取り組めるようなそういうふうにしたほうがいいんじゃないかなっていうような気がします。

社会教育部 確かに前田議員おっしゃるようになりますね、全地域でできるのが理想的な展開だというふうに思っていますが、なかなかその地域人材の確保という非常に難しくですね。今学校の校長先生とですね、我々の中で、子ども教室の事業や子供たちを地域人材とが交流する場を設けるということで、現在進めておりますが、なかなか手が挙がらないといいますか、そういう地域人材発掘ができてないというのが現状です。そこについては、課題としても捉えていますので、今後、増やしていけるような形がどういう仕組みできるのかを踏まえて考えたいと思っております。

安井副座長 今、放課後子ども教室が6か所ということをおっしゃいましたので、ですから例えば子ども教室を成果指標の中に追加して、例えばこれの開催場所を6か所から、何か所を目指すとかやっぱりそれがあってもいいのかなと思うんですが、いかがでしょう。

社会教育部 委員おっしゃるようなそのようかければ1番いいのかなと思いますが、現時点で、6地区をですね、例えば10地区というふうに、数字を上げるのはなかなか非常に難しいなと思っております、やはり人材確保ができて、また地域との連携ということを考えていく必要があると思います。今後はですね、社会教育法に基づく学校支援コーディネーターというの、設置のほうを検討しております。各学校の地域と学校をつなぐ役割を担っていただくような人材を、今後設置も考えていきたいと思っておりますので、そういうことができれば、団体として増えていけるのかなというふうに考えてます。

議員間で議論・確認等をしておいた方がよいこと等があれば発言をお願いします。

— 部長、市長等への質問等なし —

原田座長 この結果と、本日の執行部との質疑応答及び議員共有を含めた形で、分科会の座長報告を行いたい。報告については座長に一任いただきたい。

—— 異議なし ——

原田座長 また会議録等については事務局に調整させ正副座長において内容確認を行いたい。

—— 異議なし ——

安井副座長 挨拶

原田座長 散会宣告

15:30 散会